

# いずみ

第28号

2009年7月1日発行

(題字: 國松 明日香氏)

本郷新彫刻シリーズ 28



## 《太陽の手》

釧路管内白糠町坂の丘公園

(樹脂・コンクリート、  
高さ12.8m)

町開基80周年を記念し、開拓功  
労者をはじめとする町の功労者を  
たたえ、1966年(昭和41年)に設  
置された。

天高く太陽を求め、幸せを築くこ  
とを願ったもので、毎年8月15日午  
前6時にその前に立つと太陽が手  
の中央の穴にすっぽりと収まって  
光り輝くのが見られる。

(写真・文 仲野三郎)

## 「いづみ」28号 目次

本郷新彫刻シリーズ28 「太陽の手」.....	1
本郷新記念札幌彫刻美術館展覧会 目次.....	2
巻頭インタビュー 佐藤信新館長に聞く.....	3
ミュージアムの窓辺から 石狩美術館オーナー .....	4
私の多目的空間作り 渡辺行夫 .....	5
「拓けこの宝庫」修復 鈴木吾郎 .....	6
野外彫刻清掃 近美前庭と知事公館庭で .....	7
友の会 21 年度総会・シンポジウム開催 .....	8
総会資料抜粋 デジタル美術館データ入力に協力を .....	9
DVD 第 6 作は札幌軟石 中島公園で彫刻清掃 .....	10

本郷新記念札幌彫刻美術館展覧会	
本館	<p><b>独創性への道標—ロダン・高村光太郎・本郷新</b>                      7月4日<sup>土</sup> ~8月30日<sup>日</sup></p> <p>学生時代に本郷新は、高村光太郎著「ロダンの言葉」から近代彫刻の精神を、そして造形性はロダンやブールデルなどから学びました。</p> <p>本展では、本郷の造形性に影響を与えたロダンをはじめとする近代彫刻から本郷に与えた造形性への系譜をたどります。</p>
	<p><b>第 14 回本郷新賞受賞記念彫刻展</b> 9月5日<sup>土</sup> ~ 10月25日<sup>日</sup></p> <p>戦後、野外彫刻の先駆者、本郷新を記念して創設された本郷新賞の第 14 回受賞者がこのほど決まりました。受賞作の展覧会です。</p>
記念館	<p><b>本郷賞と本郷新の野外彫刻</b> 7月16日<sup>木</sup> ~11月8日<sup>日</sup></p> <p>本郷新賞受賞記念展と連携して、歴代受賞者のエスキースなどの作品と、本郷の野外彫刻のエスキースを展示。</p>

◇本郷新記念札幌彫刻美術館 札幌市中央区宮の森 4 条 12 丁目 ☎011-642-5709

◇開館時間：午前 10 時—午後 5 時◇休館日：月曜日（月曜日が祝日などの場合は翌日）◇交通機関：地下鉄東西線「西 28 丁目」駅下車 ジェーアール北海道バス「環 20」山の手環状線 3 番乗り場、「彫刻美術館入り口」下車、徒歩 10 分

まこと  
本郷新記念札幌彫刻美術館 佐藤信館長 に聞く

## 企画展重点に本郷新の魅力を

友の会と美術館 過去よりも未来に向けた相互理解が大切

本郷新記念札幌彫刻美術館の館長がこの4月、川合悌一館長から佐藤信新館長に代わった。佐藤新館長も川合前館長と同じく札幌市の教育界からの転身。札幌市芸術文化財団のもと本郷新記念札幌彫刻美術館の新たな方向への抱負などを聞いた。(編集担当 大内和)

### ——まずは新任館長としての抱負をお聞かせください。

就任に当たって3つの目標を掲げました。第1は幅広い広報活動に取り組み、できるだけ多くの方に足を運んでもらうこと。第2は札幌が生んだ偉大な彫刻家、本郷新が日本中に大きな足跡を残したことを一人でも多くの市民に知ってもらおう努力をすること。第3に、地域住民の貴重な文化的財産を誇りとし、大切にしながら市民、地域住民に愛されるような美術館運営を目指すこと。この目標実現をめざしてやっていきたい。



### ——就任して3ヵ月たちましたが、館長席に座っての感想は？

4月から始めた「札幌第二中学の絆一本郷新・山内壮夫・佐藤忠良・本田明二展」が思いのほか好調で、ほっとしています。期間中、二中の後継である札幌西高のオーケストラ部が毎週、ロビーコンサートを開いてくれて、これがとても評判がよく、地域との協調も大切にしながらと思っています。さらに、これまでは収蔵品展と本郷新賞、北の彫刻展などが中心でしたが、今後は他館からも作品を借りるなどしての企画展にも力を入れたい。また、記念館、本館それぞれの性格を生かした個別の企画展なども考えたい。

### ——前職は札幌向陵中学校長でした。教育界での経験を美術館運営にどう生かしますか。

札幌市内で36年間の教員生活を送りました。美術館にも近い札幌向陵中学に5年間いながら、なかなか訪れる機会がありませんでした。その反省の上に立って、子供たちばかりでなく、PTAにも働きかけて、学校が美術館を利用する教育をいろいろ提案していきたい。早速、向陵中の家庭教育学級に呼びかけて美術館に来てもらうことも実現しました。こうしたことを全市に広げて行きたいと思っています。一人でも多くの方に美術に親んでもらうために。

### ——美術館の支援団体である友の会との関係をスムーズに行うためにはどうしたらいいと。

まずは、過去にとらわれることなく、あくまでもこれからを大切にしていきたいと思っています。そうした意味もあって、今年度の友の会のシンポジウムにも参加させていただいた。お互いが支え合い、認め合って円滑な関係を築いて行くことができればいいのでは。相互の理解を一番大切にしたいと思っています。

## 美術館経営の難しさを痛感

石狩美術館オーナー

小松

あきら  
耀

### ユニークさを取り込んで

2007年6月1日、石狩美術館は石狩市の広大な工業団地の中央部にオープンしました。

アール・デコを代表するエッチングの画家、ルイ・イカールの作品を中心にアール・ヌーボーのエミール・ガレ、ドーム兄弟のガラス作品、日本のガラス工芸を代表する黒木国昭の繊細で優雅な作品を数多く収蔵、展示しています。いずれも、40年余りかけて収集した総数約1,100点のコレクションです。

美術館は以前、ここにあった会社の本社ビルを活用したものです。30年以上も前から道内で事業を営んでおり、事業経営の難しさを熟知していたことから、通常的美術館には例の無い、ユニークな企画を採用しました。3階建てビルの3階に展示室があり、来館者は1階の受付から3階に上がり、2階、1階へと回廊をめぐりながら作品を鑑賞するという仕組みです。

また、付属のレストランにも工夫を凝らしました。個室の中に和船が小川を流れて料理を各室に運んで来るほか、次々とコンベアに乗って現れる美術品がライトアップ

されながら360度回転し、それを個室の中で食事をしながら鑑賞できるという趣向も考え、実行しています。ほかに、美術館の中央部にガラスの舞台を設け、結婚式や各種イベントに活用するなど、地の利の悪さを色々な工夫でカバーをすべくアイデアを用いて建設を試みました。当然、初期投資は莫大な資金を投入することになりましたが、他に比較するものがないほど話題性に富んだ企画であり、時と共に入館者も増えるであろうとひそかに期待しています。実際はまだですが。

### 協同組合形式で運営

運営形態も一法人で維持するのは財政的にも至難と分かったので、グループ企業が加入している協同組合で美術館運営をやっていくならば何とか維持可能であるということがはっきりしましたので、その協同組合の事業目的変更許可が取得できたのを機に、長期戦の構えで事業展開していく覚悟です。

展示物も19世紀近代絵画などの所蔵や「動く画」（これはまだ秘密）を子供たちの夏休みに合わせて展示してみようと考えているところです。

◇石狩美術館 〒061-3242 石狩市新港中央1丁目710 ☎0133-60-4111 ◇開館時間 10:00~17:30 (入館は17:00まで) ◇休館日 水曜日 (祝日の場合はその翌日) ◇あし JR 札幌駅北口と地下鉄南北線「麻生駅」5番出口付近よりシャトルバス運行中。詳細は美術館に問い合わせるかホームページ (<http://ishikari-museum.jp>) で確認を。

## 旧本郷新アトリエ跡の春香山復活プロジェクト

### 多目的芸術空間作りの夢

彫刻家 渡辺 行夫

別名「春香山復活プロジェクト」とも呼んでおりますが、なぜこのような大げさなことになってしまったのかをお話します。

もともとの動機は、私が住んでいる近くで、一人気楽に石を彫ったり積んだりしながら、自然の中で遊ぶ空間が欲しかったのです。そこで、あちこち探し回っている中で、地元の情報に詳しいMさんが、今回の土地を貸してもらえそうだという情報を教えてくれました。

もともと200～300坪の土地を手に入れることを考えていたので、8,800坪はとても広過ぎま

す。持ち主は石をテーマにした空間作りに興味を持ってくださり、話は進んでいきました。30年以上も前に廃業した「シーサイドホテル」の残骸と庭園の池や石垣は今も残り、その雰囲気は、不思議な魅力を持っております。私一人で遊ぶ広さではありません。同じように考えている人たちと力を合わせて特色のある多目的空間作りをすることにしました。すぐ近くには、隣接する形で故本郷新のアトリエと素焼き釜のある小屋が現存しているなど、特異な条件もそろっています。詳細は3月に出したお誘いの文章ですが、100通ほどしか出していません。

やりたいという気持ちを優先しました。詳細な

計画もなく、途中の障害も気にすることなく前進する。大まかな目標しかありません。時間、資金、労力、家族や他人の意見などのあらゆる問題は無視すること。そうして進めば、逆風は突然順風になって吹くこともあります(まだ、そうなってはいませんが)。大して気にはしていません。今までそうやって生きてきました。きわめて個人的な衝動で実行しています。

4月から始めて2ヶ月ほどで門柱を建て、道を通れるようにし、彫刻を7基設置し、ある程度間伐し、笹を刈って、ごみを拾って、本郷新のアト



造成中の多目的空間に置かれた筆者の作品

リエまで車で通行できるようにしました。覆いかぶさっていた木も伐採して、協力者とともに少しずつ進めています。意欲ある作家の作品展やイベントの誘致などで弾みをつけながら、2年間である程度見通しのつくところまで造営しようと思っています。今のペースで行けば、何とかかなと思っています。こんなことに力を貸してくれる人、面白いと思う人がそんなにたくさんいるとは思っていません。協力してくださる方は大歓迎ですが、それを広めることには、エネルギーは使いたくないのが現状です。このような機会に紹介してもらえることに感謝します。

## 「拓けこの宝庫」修復のころ

鈴木 吾郎（彫刻家・札幌西高 OB）

平成 7 年の北海道札幌西高等学校新校舎落成に向けて旧校舎にあった石膏像『拓けこの宝庫』＝山内壯夫（札幌二中 9 期卒）作、本田明二（同 21 期卒）助手＝は非常に傷んでおり、どうするか問題になった。学校及び同窓会（輔仁会）ではブロンズにして残すことができないか検討を始めた。この像は昭和 25 年旭川市で開かれた「北海道開発大博覧会」のシンボル像として造られたモノであり、イベント終了後一時期道庁内に展示されていたが撤去されることになり西高が引き受けた…という経緯があった。

すでに 40 年近く経ており、素材（石膏）も劣悪で破損状況は激しく、斧は既になかった。旧校舎から運び出す時点で石膏像（ダークグリーン着色・内部は空洞で木材補強）はひび割れがひどく、トラック輸送で富山の鋳造所へ着いた時にはたくさんの破片になっていた。それらの破片を鋳造し、継ぎ合わせて組み上げたが、そうした過程で紛失していた斧の復元が問題になった。せっかくお金をかけてモニュメントとして再生させるのであれば出来るだけ制作当時に近いモノに出来ないか？とのことだった。

それで復元すべきかどうか関係者（学校・同窓会・道立近代美術館・ご遺族ほか）が検討した結果、復元することになった。しかし、現物を見た人はすでにいなくて、



資料を探すことから始まった。八方手を尽くし、北海道立図書館に「北海道開発大博覧会」の資料が見つかり、幸いにして印刷物に写真が残っていた。

斧は思いのほか大きく、斧という言葉からは想像出来ない形体だったが、彫刻造形という観点から見ると量感・空間共に納得できるフォルムだった。斧は石膏の直づけで、出来るだけ忠実に復元することを心がけた。一番大変だったのは平面写真から立体や空間をどう汲み取るか？ということだった。試行錯誤の末、現在の作品となった。

作品がブロンズになった時点で校舎は骨格が完成しており、予定の中庭に搬入するには空からしか開口部がなく、最大のクレーンを使っても現在の位置に届くのがやっとだった。従って設置場所は中庭の最適な位置とは言えない。完成後それまでに至った経緯をブロンズ銘板で出入り口に紹介している。



## 野外彫刻清掃

### 近美前庭と知事公館庭で汗流す 道立近代美術館と共催実現

友の会の野外彫刻清掃活動がついに道立近代美術館に認められ、同館からの委託という形で5月9日、近代美術館前庭と知事公館庭の彫刻清掃が行われた。作業は北海道美術館協力会の協力も受け、約60人が参加。作業は渡辺行夫、小野寺紀子両彫刻家のアドバイスで慎重に行われ、翌日の北海道新聞に報道された。参加者2人に当日の様子をレポートしてもらった。今回は今年秋に実施の予定。

#### 湧き上がる作品への親しみ

高野 豊（会員）

初めて参加した新入会者です。野外彫刻のクリーニング作業のイメージをまともに捉え、作業効率を考えてポータブルなガソリン駆動ポンプを持参しましたが、コンセプトがまず「作品に親しむ」ことであることを現場で痛感しました。参加者が代わる代わる素手でさわって、布で磨くことで作品への理解を深め、愛情を感じることができる様子がよくわかりました。絵画は二次元ですが彫刻は三次元の芸術です。古代遺跡からも多くの作品が発掘されているように人

類は二次元の絵画よりも早く三次元の作像を行ってきたように思います。ギリシャのビーナス像たちは最高レベルの作品でしょう。

この文を書くにあたり、改めて札幌彫刻美術館を見てきました。足元から見上げた本郷新さんの大きな女性像は自分が3歳児だった頃の母もこんなふうに見えたのかなと改めて感動しました。神が創造したとしか思えない曲線美の表現に挑戦した彫刻家たちにただただ脱帽です。

#### 作家の手の感触まざまざと

松島 伸子（美術館協力会会員）

さわやかな五月晴れの清掃日和に恵まれ、近代美術館、友の会の要請に応じて近美の前庭に集まったのは60人余り。同美術館の新名学芸課長から作品解説、二人の彫刻家から石彫、ブロンズの清掃ガイダンスがあり、芸術作品であるから傷をつけないよう細心の注意を払うようにとのこと。作品の材質、塗料によって使う道具、洗剤が異なることなどを勉強しました。おかげで無難にすべて水洗い、豪快に水をかけてのスポンジ洗いに取り組むことができました。

日頃、何気なく目にしていた彫刻に隠れた造形の妙を見出し、手触りから作家の指使いまでも感じられ、作品に対する愛着もわいてきました。洗い終わった後のすがすがしい気分は格別で、得がたい経験となりました。私が属する美術館協力会からは21人が参加しましたが、会の中からもこれを機に野外彫刻清掃活動計画が浮かび上がってきました。ご指導くださった友の会の方々、ありがとうございました。

## 彫刻美術館友の会平成21年度総会・シンポジウム開催

友の会の平成21年度総会とシンポジウム「デジタル時代のミュージアム—新しい市民文化の潮流をめざして—」が5月16日午後、札幌市教育文化会館4階講堂で開かれた。  
(大内 和)

### 「時代を先取りした活動を」橋本会長強調

総会は午後1時、開会。議事に先立って橋本信夫会長は「美術館が芸術文化財団所管という新しい体制になって2年。よりシステマチックな運用の可能性を広める第一歩として、美術館と友の会の関係改善を図り、時代を先取りした新しい活動をめざしたい」とあいさつした。

### 道立近美の彫刻清掃協力など新規事業

ついで議長に松原安男氏を選出、平成20年度事業報告案、同決算・監査報告、平成21年度事業計画案、同予算案を審議、いずれも原案通り可決、承認した。

新年度事業では彫刻美術館の展示鑑賞、美術館行事への参加、館との交流推進などがうたわれた。また、市内美術館めぐり、1泊2日の道内美術館めぐりの実行、会報「いずみ」の発行、野外彫刻データベースの充実と公開準備、新規事業として道立近代美術館などの野外彫刻清掃協力が盛り込まれた。新年度予算は会費など収入総額107万4268円、支出は会員入館料補助（彫刻美術館）2万円、会報発行などの広報事業など27万円、彫刻地図作成1万円などが計上された（次ページ総会資料抜粋参照）。

### DVD「郷土の芸術家山内壮夫」を上映

総会終了後、引き続いて友の会が作成した山内壮夫生誕100周年記念のDVD「郷土の彫刻家山内壮夫の軌跡と芸術」が上映された。

### デジタル時代をテーマにシンポジウム

この後はシンポジウム「デジタル時代のミュージアム—新しい市民文化の潮流をめざして—」。

札幌芸術の森美術館館長・奥岡茂雄、詩人で札幌大学名誉教授・原子修、友の会会員で、



はまなすインフォメーションの太田克美、札幌医大大学院医学研究科教授で NPO 特定非営利活動法人北海道地域ネットワーク協議会 NORTH 会長の辰巳治之の5氏が参加、松原安男友の会会員のコーディネートでそれぞれの立場から意見を述べた。

### パネラー5氏が次代の文化を強調

奥岡氏は「美術館のコレクションというもの」と題した基調講演で、美術館の生命線はコレクション（収蔵品）を教育的配慮のもとに公開し、市民の共有財産を有効に生かす工夫が大切だと強調。原子氏は自作の詩を披露しながら札幌の芸術文化の新しい動きを紹介した。さらに、太田氏は友の会が手がけている野外彫刻地図作りの背景について解説、辰巳氏は人類とコンピューターの発達の歴史を軸にインターネットと人間のネットワークの共通性に触れながら芸術と文化は次世代への遺伝子であるなどと指摘した。

## 総会資料抜粋

### 札幌彫刻美術館友の会平成21年度役員(第2期)

#### 第4号議案

#### 平成21年度 予算 (案) (平成21年4月1日~平成22年3月31日)

##### 収入の部

会費	320,000	2,000 x 160人
会員研修	500,000	3回
〃 交流	170,000	新年会
前年度繰越	84,268	
合計	1,074,268	

##### 支出の部

会員入館料補助 (本郷新記念札幌彫刻美術館)	20,000	(会員補助)
シンポジウム	30,000	
会員研修 美術館めぐりとアトリエ訪問 日帰りツアー 道内美術館めぐり	450,000	(20年度並)
会員交流 (新年会)	150,000	50名
広報事業 いずみ発行 彫刻解説 HP作成	260,000 5,000 5,000	4回発行
一般事業 野外彫刻の清掃 彫刻地図コンテンツの制作	5,000 10,000	
管理費	80,000	(会議費、通信費ほか)
予備費	59,268	
合計	1,074,268	

会長 橋本 信夫 (代表)  
 副会長 斎藤美年子 (総務、渉外)  
 〃 大内 和 (全般、広報)  
 幹事 奥井 登代 (事務局)  
 〃 高橋 淑子  
 〃 仲野 三郎  
 〃 長峯 慰子  
 〃 松原 安男  
 〃 桑原 昭子  
 〃 田中 和子  
 〃 大竹 明子  
 〃 大地 淳  
 〃 吉田 修子  
 〃 吉岡 達夫  
 〃 佐々木保枝  
 〃 伊藤 百子  
 〃 猪俣 岩生  
 〃 石川 博司  
 〃 坂崎健治朗  
 監査 濱 久子  
 〃 高津多香子

## 「デジタル美術館構想」データ入力などに協力を！！

友の会では野外彫刻のデータベースと彫刻地図を組み合わせた「札幌デジタル彫刻美術館」の実現をめざしていますが、次のような作業に協力して下さる人の応援を求めています。

- 1 野外彫刻のデータベース作成(資料入力と管理)
- 2 野外彫刻の解説文作成
- 3 彫刻地図コンテンツの作成
- 4 札幌デジタル美術館運営システム作り(資料入力、検索、管理)

協力できる人は直接、橋本会長まで連絡を。

☎011-552-8956 Eメール [hashi@vetmed.hokudai.ac.jp](mailto:hashi@vetmed.hokudai.ac.jp)

## DVD 第6作の制作決まる

### 「札幌軟石を用いた野外彫刻の魅力」

「ちえりあ」に制作申請

友の会が札幌市視聴覚センターの委託で制作している視聴覚教材は今年もDVDでの作品作りが決まった。テーマは札幌の建築用材として広く利用されている札幌軟石に目を向け、札幌軟石を利用して彫刻を制作する作業工程を追う。本道を代表する石の彫刻家・渡辺行夫さんの協力を得て、採石から石材の加工、制作過程をつぶさに撮影、収録し、創作に取り組む作家の姿、札幌軟石の魅力を紹介する。

橋本信夫会長を中心に制作部会を発足させ、シナリオ作成、彫刻家、石材店との調整が出来次第、夏場をメインに、採石場、石材工場、作家アトリエなどでの撮影を行い、来年2月完成の予定。

## 中島公園で彫刻清掃

「木下成太郎像」などすっきり

中島公園に点在する野外彫刻の清掃作業が6月20日、中島公園モニュメント研究会と彫刻美術館友の会のメンバーの手で行われた。

同公園の彫刻清掃は昨年以来、3回目。「おーい みんなおいでよ 誰でもできるお掃除で



一す」の呼びかけで集まった人たちが、「木下成太郎像」(朝倉文夫)、「母と子の像」(山内壮夫)などの作品を雑巾、歯ブラシなどを巧みに使いながら、手際よく彫刻の掃除に汗を流した。

## ギャラリー案内

### ■「夏の女性展」

7月21日[火]～26日[日] さいとうギャラリー(中央区南1西3 ☎222-3698)

友の会会員の木村暁美さん、久本由美子さん、福重紀代子さんが絵画作品を出品する。

### ■北国の花だより—開発こうほう原画展—

7月27日[月]～8月1日[土] オリジナル画廊(中央区南2西26-3-10 ☎611-4890)

会員の船迫吉江さん、須田靖子さんが8年にわたって「開発こうほう」に掲載した北国の植物の原画を展示する。

### ■OKUI MIGAKU ギャラリーコンサート

△阿部礼奈による夏の夜のフルートの調べ

7月20日[月] 午後3時開演

△想・伝 二人のチェリストによる饗宴

8月16日[日] 午後3時開演

チェロ・奥泉貴圭、熊沢雅樹

いずれも OKUI MIGAKU ギャラリー(中央区旭ヶ丘 5-6—61 ☎521-3540) 入場料 1000 円。

**編集後記** 28号をお届けします。次号は10月発行予定の29号、ついで、来年1月の発行は30号になります。第1号は2004年(平成14年)9月の発行でした。5年で30号まで到達することになります。30号は記念特集でも組めないかと考えています。どなたかアイデアを寄せてくだされば幸いです。

(大内)

### 札幌彫刻美術館友の会会報「いずみ」No.28

2009年7月1日発行

発行 札幌彫刻美術館友の会事務局

(札幌市中央区南9条西4丁目7-1-1003)

発行人 橋本 信夫

編集スタッフ 斎藤美年子 : 011-643-7246

大内 和 : 011-884-6025